海外体験記

Politécnico de Leiriaでの文化研修プログラムに参加して

薬学部 薬学科 4年
森 日向子（もり ひなこ）

徳島文化の写真や作品、説明文を展示させていただいたスペース

看護学科での施設見学

2018年3月4日から3月12日まで、ポルトガルのレイリアにて文化研修プログラムに参加させていただきました。レイリアは首都リスボンからバスで2～3時間ほど離れた小さな美しい街で、徳島市と姉妹都市を提携しています。この研修の目的は、レイリア市民と我々学生が相互に異文化理解を深めることで両都市関係の発展に貢献することでした。姉妹都市を提携して来年で50周年を迎えるということで、レイリア市長、地元民、その他関係者など多くの方々に歓迎していただきました。

本研修ではレイリア工科大学の学生と一緒にいくつかの授業に参加し、大学外では博物館やレイリア城などの観光地、さらに小学校にも訪問して現地の子供達と日本の遊び（折り紙等）をして交流しました。たった一週間のコースとは思えないほど内容が充実しており、毎日が発見の連続でした。現地学生達が大学内外どこに行くにも付き添ってくれて、通訳・説明・トラブル解決などのお世話や、イベント等への招待をしてくれました。お互いの文化が全く異なる同年代の学生達と一緒に語り合ったりふざけ合ったりして仲良くなり、別れる際にはたった1週間前に会ったばかりとは思えないほど寂しく感じました。

また、本研修では人生初のホームステイを経験しました。いつも笑顔のたえない優しい夫婦（＋猫）と一緒に過ごした時間はかけがえのない大切な思い出です。普通の旅行では絶対に触れることのできない現地の暮らしを直に体験させていただき、とても貴重な経験となりました。

以前に他の海外研修にも参加したことがあるのですが、毎回帰国後に一番心に残っているのは「人との交流」です。特に本研修では人と交流する機会を多くいただきました。異なる文化圏の人と交流するには、言葉が通じようが通じまいがお互いに相手を理解しようと努力する姿勢が重要で、その中で互いの心が通じ合うことや、相手に親切にしてもらうことは自分にとって大きな励みとなります。また、海外で何かを経験すると必ず自分が今まで考えたこともなかったようなことについて真剣に考える機会を得ます。それは社会問題や人権問題についてかもしれませんし、自分の能力や生き方についてかもしれません。訪れた国だけでなく、日本や世界全体さらには自分自身についても何か発見があるはずです。このような経験は今後の自分の生き方に影響しますし、何かに新しく挑戦する際の基盤にもなります。海外研修や留学に興味がある人には、ぜひ挑戦してほしいと心から思います。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を可能にしてくださった全ての方々に御礼申し上げます。

レイリア城からの景色

大学内のDigital Resource Centerを見学

留学生滞在記

My Life in Tokushima

徳島大学で得た幸運

大学院薬科学教育部 博士後期課程 2年
周 禹（シュウ ウ）［中国］

中国・内モンゴルから来た周禹と申します。中国の瀋陽薬科大学を卒業し、日本で一年半日本語を勉強したあと、2015年4月に徳島大学大学院に入学しました。徳島大学でとても充実した生活を送っています。

徳島大学で得た幸運の一つは、多くの日本人や中国人と良い友だちになったことです。中国人の先輩からは様々な経験を聞き、仲の良い友人になりました。一緒に買い物に行ったり、おいしい日本の料理を食べに行ったりしています。研究室では私が唯一の外国人なのですが、研究室の人たちはみんな優しくて、研究以外にも日本の文化や習慣などについて、いろいろなことを教えてくれます。昨年は一緒に阿波踊りを見に行き、とても楽しかったです。同じ研究グループの二人の仲間との関係は、中国でよく使われている「鉄の三角」という語で表現することができます。〈この言葉は3人の友達がとても仲が良い、という意味です。〉今年の夏、一緒に富士山に行く予定がありますし、卒業後の2020年の東京オリンピックや2022年の北京冬季オリンピックに一緒に行こうと約束しています。

今でも徳島大学の第一印象を覚えています。シンプルで実用的な建物が並ぶキャンパスですが、生命に対する尊重、保護と希望を与える大学だと感じました。徳島大学に入学できた幸運を思い返しつつ、大学でとても興味深い研究をしています。最初の修士2年間で神経疾患について学びました。動物の行動実験を行い、生化学的な方法を用いて治療薬の研究をしました。とても楽しく研究ができたので、何の迷いもなく博士後期課程で研究を続けようと決めました。現在は博士課程の2年目ですが、自分の知識や研究の技術を高めて、より高度な研究を行っています。これからも、積極的な思いを持ち、自分の思いを行動に移して、もっと強い自分になれるようにがんばりたいと思います。

薬学を選択した理由は、単に化学に興味があっただけでなく、自分の家族を含めて社会の人たちの健康を守りたいと思ったことです。医薬品、特に神経疾患の治療薬の研究は、私の一生の仕事だと考えています。将来は医薬品の研究者になって、病気の人たちにとって本当に助けになる薬を開発したいと考えています。

徳島大学で本当に幸せな三年間を過ごすことができました。徳島はとても静かで穏やかなところです。徳島で特に気に入っているのは「徳島の風」です。私の故郷でも強い風がふきますが、徳島の風はやさしくて、友だちのようにずっと私の毎日の生活に心地よく付き添ってくれます。将来、徳島を離れても、徳島の「風」を思い出すたびに、徳島での楽しい生活や研究を思い起こすだろうと思います。

修士の修了式で研究室のみんなと（前列左端）

徳島中央公園でのお花見

2017年の阿波おどり（右から2人目）